

新型コロナウイルス感染症支援における DPAT活動報告 — 精神科病院クラスター対応における活動 —

諸見 秀太[†]第75回国立病院総合医学会
(2021年10月23日～11月20日
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 5 (360-364) 2022

要旨

本シンポジウムでは、市中感染フェーズにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への支援として、災害派遣精神医療チーム (Disaster Psychiatric Assistance Team : 以下DPAT) による沖縄県内精神科病院でのクラスター対応における活動報告を行った。

報告内容は、①沖縄県における市中感染フェーズにおける沖縄DPATの活動、②精神科病院でのクラスター対応におけるDPAT活動から考えた今後に向けての2点であった。①に関しては、沖縄県内における新型コロナウイルス感染拡大経過において、沖縄県コロナ対策本部組織下で行ったDPAT活動の概要や、精神科病院でのクラスターにおけるDPAT活動ならびにDPATロジスティクス (業務調整員, 以下DPATロジ) としての役割・業務について、クラスター発生現場となる現地対策本部で行った活動を中心にまとめた。主な活動としては、Command and Control (指揮と連携)・Safety (安全)・Communication (情報伝達)・Assessment (評価) といった災害時にとるべき行動の基本原則 (CSCA) を念頭にした現地対策本部確立の支援や院内感染状況の情報収集・整理、感染管理・対策に関する物品管理への支援、陽性者の転院搬送・戻り受け入れ調整、各関係機関とのオンライン定例ミーティング実施への支援であった。その中でDPATロジとしては、各種情報の収集・整理、現地対策本部と各関係機関で情報共有するための体制整備、転院調整にともなう患者ご家族および受け入れ医療機関等への連絡等を行っていた。これらは、クラスター発生病棟と当該病院内対策本部をつなぎ、当該病院と外部支援者をつなぐための黒子として従事し、当該病棟・病院職員の負担軽減ならびに安心・安全につながるような支援を心掛けての活動であった。②では、今回の活動をとおして、DPATとして感染症支援活動にむけての平時の備え、DPATロジとして活動する心理師としての備え等について報告し、今後の感染症対策におけるメンタルヘルスについて検討したことを報告した。

キーワード 新型コロナウイルス, メンタルヘルス, DPAT, 市中感染フェーズ,
精神科病院でのクラスター

国立病院機構琉球病院 心理療法室 †心理療法士

著者連絡先：諸見秀太 国立病院機構琉球病院 心理療法室 〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武7958-1

e-mail : shuta.mrm@gmail.com

(2022年3月22日受付, 2022年10月14日受理)

In COVID-19 support Activities as Disaster Psychiatric Assistance Team (DPAT) in Psychiatric Hospitals where Clusters Occurred

Shuta Moromi, NHO Ryukyu Hospital

(Received Mar. 22, 2022, Accepted Oct. 14, 2022)

Key Words : coronavirus disease-2019, mental health, Disaster Psychiatric Assistance Team (DPAT), phase of community transmission, cluster in psychiatric hospital

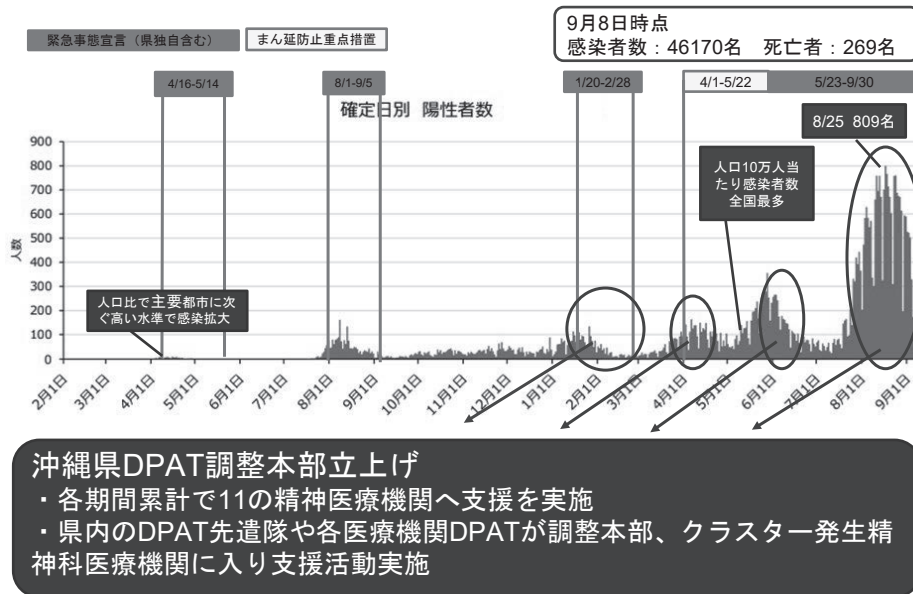


図1 沖縄県内のCOVID-19感染状況と沖縄DPAT活動

はじめに

本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）をめぐる諸問題に対して、国立病院機構の心理療法士が取り組んだメンタルヘルスを中心とした支援について災害医療・産業保健・精神医療の立場から話題提供し、メンタルヘルスの今後のあり方について考える機会となった。筆者は、災害医療の立場から、DPATによる沖縄県内の精神科病院でのクラスター対応を中心とした支援について概観し、クラスター発生現場スタッフの負担軽減を目的として行った組織的かつ効率的な情報活用の支援・クラスター発生病院内外をつなぐ支援・心理療法士としての職種専門性に固執しない支援が、今後のメンタルヘルス支援のあり方にとって大切な要素になると考え、話題提供した。

市中感染フェーズにおけるDPAT活動

沖縄県では、2020年2月にCOVID-19感染者が初めて確認され、同年4月には国内主要都市に次ぐ高い水準での感染拡大となり、同年8月には濃厚接触者ではない感染経路不明な陽性者が多くみられるようになる市中感染フェーズに入り、2021年5月には人口10万人あたりの感染者数が全国最多、同年8月25日には1日の陽性者数が809名と当時としては最多

となった。この間、緊急事態宣言が4回（県独自も含む）とまん延防止等重点措置が1回施行されており、同年9月8日時点では感染者数46,170名、死亡者269名となっていた。図1は、沖縄県における確定日別陽性者数¹⁾（2020年2月-2021年9月8日）と沖縄県DPAT活動経過を示したものである。沖縄県DPATは、市中感染フェーズにおける感染拡大期の第2波、第3波、第4波、第5波の計4回、沖縄県コロナ対策本部内にDPAT調整本部を立ち上げ、活動している（2021年9月時点）。この4回の活動期間において、累計11の精神科医療機関への支援を実施し、沖縄県内のDPAT先遣隊ならびに各精神科医療機関DPATが調整本部、精神科病院でのクラスターへ対応している。

DPAT調整本部の活動は、沖縄県コロナ対策本部における総括情報部内の対策支援班に位置付けられ、DPAT統括者による本部長のもと、情報管理・記録・連絡調整・派遣調整をDPATロジが担当する体制のもと行っている。活動内容は、DPAT活動の情報を取りまとめ、県コロナ対策本部内の各支援班と連携するものである。具体的には図2²⁾にあるような、クラスター発生病院からのニーズならびに現地派遣DPATによるアセスメントをもとに、感染症専門家等の派遣依頼があれば対策支援班へ、感染対策資機材の不足・調達依頼があれば物資担当システムへ、陽性者の転院調整依頼は医療コーディネー

新型コロナウイルス感染症 精神科病院クラスター対応におけるDPAT活動の意義

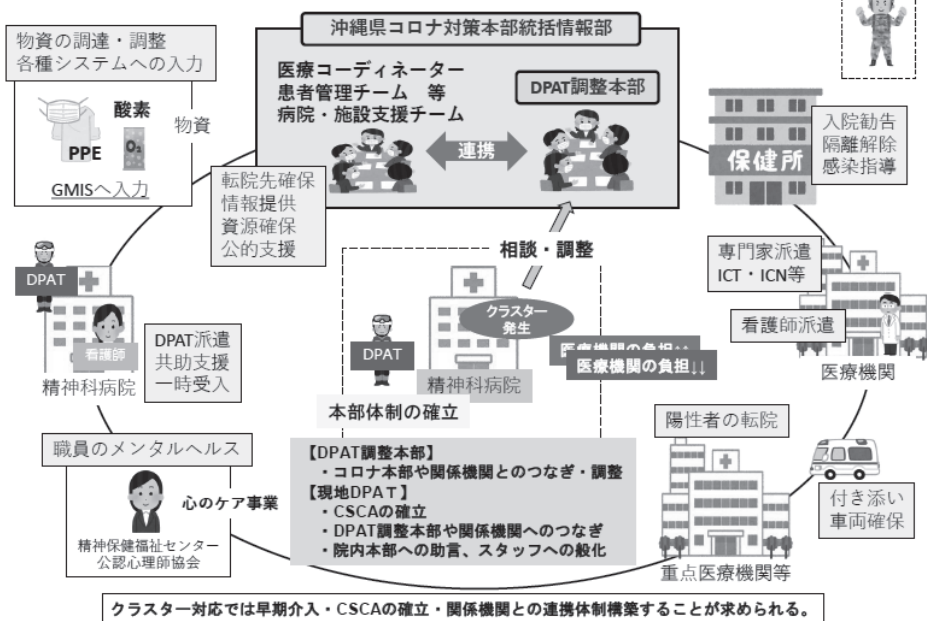


図2 精神科病院でのクラスター対応における沖縄DPAT活動

ター・入院調整班へ、職員へのメンタルヘルスについては心のケア事業へつなぐというものであった。これらの連携・つながりが、クラスター発生病院の負担軽減に重要なものとなっている。

精神科病院でのクラスター対応の主な支援活動は、現地対策本部（以下、院内本部）確立、感染管理体制の確立、陽性者搬送・戻り転院調整、内科的治療に関するプロトコル作成、不足資機材の調達、人員体制の確立、DPAT調整本部への支援依頼であった。これら活動の中から主に、院内本部確立の支援や情報収集・整理・共有への支援、クラスター発生医療機関と外部支援をつなぐための支援の3つについてDPATロジの視点から述べる。

まずは、院内本部確立の支援だが、災害時に取るべきメディカルマネジメントの基本原則であるCommand and Control Safety Communication Assessment (CSCA) にもとづいた本部体制の構築、本部活動がしやすいロケーション、クラスター発生医療機関と外部支援機関との連絡体制構築が主な活動であった。院内本部体制は、支援当該医療機関の院長を本部長におき、そのもとに病棟・感染管理や情報管理等の担当部署が複数あり、それぞれの部署には看護統括やロジ統括、情報発信、物資管理などの統括が配置されている。これは、指揮命令系統に

おける縦の関係と横の関係がスムーズとなるような本部体制を作り、クラスター支援活動が円滑に行えるようにしていた。ロケーションに関しては、本部内に集まるさまざまな情報を収集・整理・共有するために、ホワイトボード等に視覚化された情報の配置や連絡担当者・情報管理担当者の配置を検討し、本部内での支援活動が効率的に行えるようにしていた。

次に情報収集・整理・共有への支援について述べる（図3）。クラスター発生・感染状況について、病棟図面をもとにベッドマップの作成や感染者数・陽性者解除数などを数値化し、現場である病棟と院内本部スタッフが病棟状況を随時共有できるようにした。また、本部に集まるすべての情報をクロノロジー（経時活動記録クロノロ）で整理し、そこから各種シート（陽性者一覧、PCR検査・抗原検査実施一覧など）へ転記することで情報活用を効率的にした。またこれらの情報は同時に、電子化や統計の情報としてもまとめていた。陽性患者の転院搬送、戻り受け入れ調整に関しては、県内重点医療機関やコロナ病床を有する県立精神科病院へ転院調整のためにDPATロジとして、情報提供書など転院にともなう各種書類の作成・確認や、搬送手段ならびに転院するための車両・同伴スタッフの確保・確認、日時調

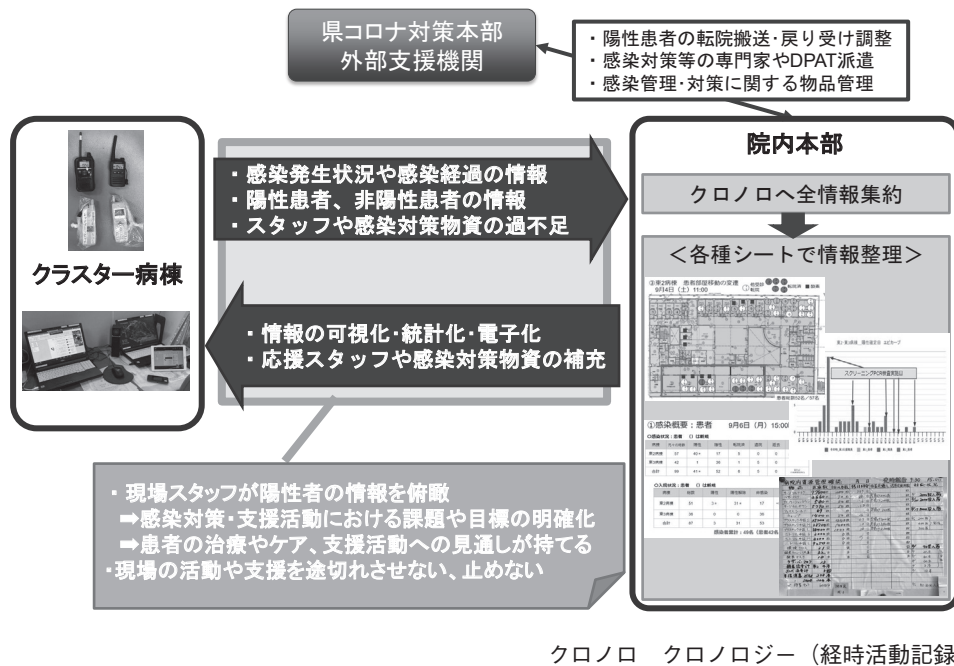


図3 情報収集・整理・共有のための支援

整、転院する患者家族への連絡を行った。また、転院先での陽性解除を受けての当該病院への戻りや、他精神科病院での一時受け入れのための調整等も行った。一方で、陽性者が複数発生し、転院が困難となった場合は、クラスター発生医療機関である自病院で陽性者を診ることとなっていた。そのため、感染管理・対策に関する物品がより多く必要となったため、これら物品管理の支援として、感染対策に必要な物品の確認、使用数や在庫数の確認、不足の懸念があれば早めに調達できるように調整を行った。これらの情報に関する支援活動は、現場であるクラスター発生病棟ならびに院内本部スタッフが陽性者や感染状況の情報を俯瞰でき、支援活動における課題・目標が明確となり、患者の治療やケア、支援活動の見通しが持てることにつながったと思われる。また、現場スタッフの活動を途切れさせないことや、現場への支援を止めないことにもつながったと思われる。

クラスター発生医療機関と外部支援をつなぐための支援とは、クラスター発生病棟と院内本部、院内本部と外部支援機関をつなぐ支援活動であった。今回の支援活動においては、GoogleドライブやグループLINEなどのコミュニケーションツール、Webミーティングを活用して情報共有を行った。Googleドライブでは電子化された情報の共有・編集、グルー

プLINEでは情報の即時伝達・共有や助言、Webミーティングでは各種情報をまとめたミーティング資料をもとに外部支援機関やCOVID-19専門家と方針・課題の共有や課題解決に向けた助言等の双方向のやりとりが行われた。また、院内本部内でも定時・適宜ミーティングを行い、活動方針の進捗やミーティング資料などの確認を行って、情報更新・共有をすすめた。これらつなぐための支援は、クラスター発生病棟や院内本部、発生病棟以外のスタッフも含めて一緒に共有することで、病院全体としての活動につながり、状況に応じたタイムリーな支援につながっていたと思われる。

最後にクラスター発生時のメンタルヘルス支援について述べる。沖縄県では、県精神保健福祉センターと県公認心理師協会による心のケア事業によって、保健医療従事者のメンタル支援³⁾が行われている(図2)。支援内容は、心理教育的講話や個別面接、ストレスチェックなどの施設内サポートプログラムや、電話相談を中心とした個別のサポートプログラムである。精神科病院クラスターでは、当該医療機関の医療従事者における精神的ダメージ・負担は大きく、メンタルヘルスへの支援がとても重要と感じている。そこでクラスター対応で派遣されたDPATとしては、メンタルヘルスの必要性やメンタルケアのタイミング等について提案し、県の心のケア事業

へつなぐことを行った。また、メンタルヘルスについては、派遣されているDPAT隊員へのケアも必要と感じている。クラスター現場での支援活動は、自然災害時や平時とは違う活動であり、派遣されるDPAT隊員が固定されている場合はよりいっそうメンタル的負担が大きい場合がある。そのため、今後は支援する側のメンタルケアも考えることが必要である。

今後に向けて -精神科病院での クラスター支援DPAT活動から考える-

沖縄県における市中感染フェーズでは、精神科病院でのクラスターが複数発生し、クラスター対応のためにDPATが派遣され支援活動を行っている。その支援概要は図2にまとめられる³⁾。クラスター対応のために現地へ派遣されたDPATは、現地院内本部体制確立のために、早期介入・CSCAにもとづいたメディカルマネジメント、DPAT調整本部や外部支援とのつなぎ、院内本部や陽性者対応スタッフへの助言・般化への支援を行っている。これらの支援は、クラスター発生病棟・病院の負担軽減や安心・安全につながるための活動と考える。具体的には、クラスター発生病棟内・病院内をつなぎ、不安や戸惑いを受け止め、組織的な対策がとれるように支援すること、孤立しない・させないために外部支援機関や専門家とつなぎタイムリーな支援が得られるよう支援することである。また、自身の職種専門性に固執せずにDPATロジとして、いつでも・どこでも・やれることはやるという意識のもと黒子として支援することも大切だと考える。

おわりに

今後に向けて大切なこととして、COVID-19に関する諸問題を支援するための平時の備えをあげる。それは、COVID-19の最新知見や標準的な感染予防・対策に関する知識、情報を収集・整理・活用するためのスキル、自助・共助・公助につながる顔の見える関係性の構築、感染症に関するメンタルヘルスの視点である。これらの備えは、有事の際の支援において、支援を受ける側が持つレジリエンス（回復力）を引き出すことにつながり、支援者側によるおしつけがましくない支援につながると考える。そのためにも、心理療法士としての日常臨床から、平時の備えを意識したメンタルヘルスへの取り組みが大切だと考える。

著者の利益相反：本論文発表に関連して申告すべき利益相反なし

[文献]

- 1) 沖縄県における新型コロナウイルス感染症発生状況 (Accessed March, 21, 2022 at : <https://www.pref.okinawa.lg.jp>)
- 2) 新型コロナウイルス感染症精神科病院クラスターにおけるDPAT活動の意義 沖縄県DPAT調整本部2021
- 3) 沖縄県新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業 沖縄県公認心理師協会 (Accessed March, 21, 2022 at : <https://www.okisccp.jp>)